# 全校集会 校長講話（11 月 9 日）
## テーマ：心を開き、相手に近づく ～漢字が教える「挨拶」の本当の意味～

おはようございます。
11 月に入り、朝夕の寒さが一段と深まってきましたが、元気に学校生活を送れているでしょうか。
さて今週は、各学年で将来の社会や仕事について考える大切な取り組みがあります。1 年生は地域や社会の第一線で活躍されている方々をお招きする「職業講話」、2 年生は実際に社会に出て働く「職場体験」が実施されます。

こうした貴重な機会を迎える皆さんに、今日、先生がぜひ考えてほしいことがあります。それは、私たちが毎日行っている「あいさつ」の意味についてです。皆さんは普段、どのような気持ちであいさつを交わしているでしょうか。
「あいさつ」という言葉を漢字で書くと、少し難しい漢字で「挨拶」と書きます。実はこのふたつの文字の成り立ちには、深い意味が込められています。
「挨（あい)」という字には、「押しのける」「開く」という意味があります。
「拶（さつ)」という字には、「近づく」「迫る」という意味があります。
つまり「挨拶」とは、元々「自分から心を開き、相手の心に一歩近づく」という意味から生まれた言葉なのです。

社会に出て働くようになると、どんな仕事であっても一人で完結するものは一つもありません。お客様や職場の人と関わり合う中で最も大切なのは、まず自分から心を開き、相手との距離を縮めることです。そう考えると、あいさつとは単なる「決まりごと」でも「立ち止まって行うだけの形」でもありません。あいさつとは、社会に出て人と働く上で最も欠かせない「自分の心を開いて相手に近づく、最初の大切な仕事」なのです。

声が小さかったり、下を向いたまま通り過ぎてしまったりしては、自分の心を開いたことにはなりません。「おはようございます」「よろしくお願いします」と自分から気持ちのよい声を届けること。それだけで、お互いの心が開き、信頼関係という素晴らしい仕事の土台が作られていきます。
以前からお話ししている「人事を尽くす」とは、目の前にある当たり前の基本に心を込め、愚直にやり切る姿勢のことです。「自分から心を開いて挨拶する」という目の前の人事（努力）を積み重ねていくことが、皆さんの中に「人と繋がる確かな力」という強い自信を育てていきます。

今週の職業講話や職場体験で田辺中学校の誇りを持って心を開き、素晴らしい「挨拶」を響かせていきましょう。
以上で、先生の話を終わります。